



CACグループは、事業のグローバル化とともに、グローバルでの人材採用・育成に取り組み、ダイバーシティを推進しています。また、財産であり商品である社員に対し、働きやすく、そのスキルを存分に発揮できる環境を提供しています。

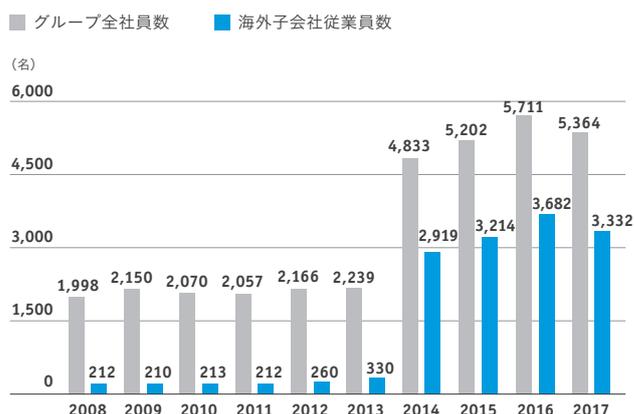
価値観の異なる多様な人材を採用しています

中核事業会社であるシーエーシーでは、2008年より新卒採用における外国籍社員の採用を継続しており、2018年は19名(全新卒採用者数は52名)が新たに入社しました。採用を始めた当初、外国籍社員には案件のグローバル化(顧客企業の海外進出に伴うプロジェクト)への対応を中心に活躍を期待していましたが、様々な価値観を持つ社員を迎えたことがこれまでの仕事の進め方や働く姿勢を見直す良い機会ともなっています。

現在、CACグループでは全従業員数の55%を海外グループ会社の従業員が占めています。また、インド子会社のAccel Frontlineが持つ先進運転支援システムの技術を日本の自動車部品メーカーへサービス提供するために、Accel Frontline社員がインドから来日し、シーエーシー社員と協業、活躍するなどグループ内の人的交流も進んでいます。各グループ会社間の人材交流はCACグループの

大きな力に繋がるものと考え、技術だけではなく人材の交流を継続的に検討しています。

社員総数に対する海外子会社従業員数



柔軟な働き方ができる環境を整備しています

CAC Holdingsおよび中核事業会社シーエーシーでは、2012年から整備したテレワーク環境を維持しています。主に管理部門のフロアを対象にフリーアドレス制(固定席を設けない)を継続しているほか、在宅勤務も可能となっているため、社員各々の環境に応じた柔軟な働き方を実現させています。

近年、CACクロアではフレックスタイム制の勤務体系を導入しましたが、フレックスタイム制は同社の全社員に浸透しており、導入前に比べて社員の時間管理の意識が高まりました。その結果、一人当たりの月間総労働時間の減少を実現しました。





ビジョン共有と、社員間コミュニケーション促進により、円滑な業務を推進しています

中核事業会社であるシーエーシーおよびCACクロアでは、全社員参加研修が定期的に行われています。文字どおり、全社員が参加する研修であり、その開催数はシーエーシーでは30回／年、CACクロアでは20回／年を超える大規模な取り組みです。最大の特徴は、同一の研修コンテンツを全社員が受講することです。この研修を通して会社のビジョンを共有し、日頃接点のない社員同士が意見を交わし合い切磋琢磨することは、研修受講後の社員間により円滑なコミュニケーションに寄与します。中期経営戦略の初年度である2018年度は、シーエーシーでは5度目、CACクロアでは6度目となる全社員研修の開催が計画されています。

また、CAC Holdingsでは、CACグループ社員とその家族などを対象としたイベントを開催しています。夏には、社員やその家族、協力

会社の方を招いての納涼祭、秋にはソフトボール大会を開催しています。このような様々なイベントは社員のコミュニケーション促進はもとより、当社グループ社員を支えるご家族の慰労の場としても、とても盛況です。

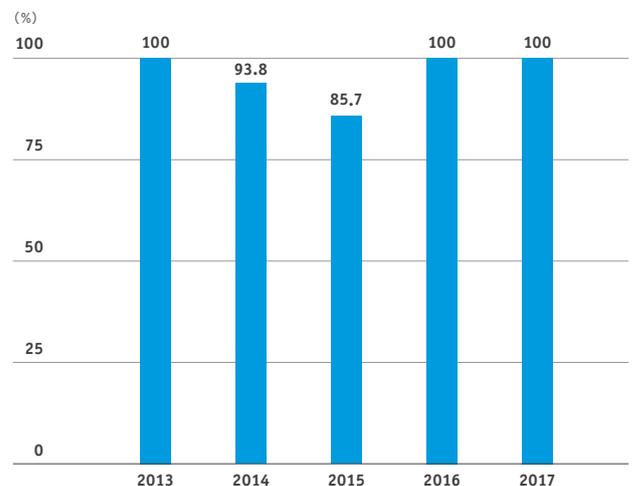


ソフトボール大会の様子

取り組みによる成果

社員にとって働きやすい環境づくりは、社員の離職防止につながっていると認識しています。例えば、過去5年間の育児休業取得者(女性)の平均復職率は95%超となっており、出産や育児といった個人の考えや生活、働き方に大きな変化がある中でも、従来と変わらず、そのスキルを発揮し続けています。

育児休業取得者の復職率(過去5年)



社会との関わり

CACグループは、事業活動に加え、障害者スポーツへの支援など、社会貢献活動を通じて、社会的な問題の解決に貢献していきたいと考えています。

世界をフィールドに先進のICTをもって 新しい価値を創造する

CACグループでは、1966年の創業以来、お客様の要望に応じて、新しい技術や事業に挑戦してきました。その結果、アステラス製薬(旧山之内製薬)様やみずほ銀行(旧日本興業銀行)様など国内トップクラスの様々なお客様と長く関係を築き、システム分野を成長させるとともにCRO分野へも進出、さらに、海外展開などにより、グローバルで約5,400名の従業員を有する企業グループに成長しました。

今後も、グローバル化や多様化する価値観から生まれる市場のニーズを汲み取り、新たなサービスを生み出していくことで、社会の皆様に貢献できる企業であり続けたいと考えています。

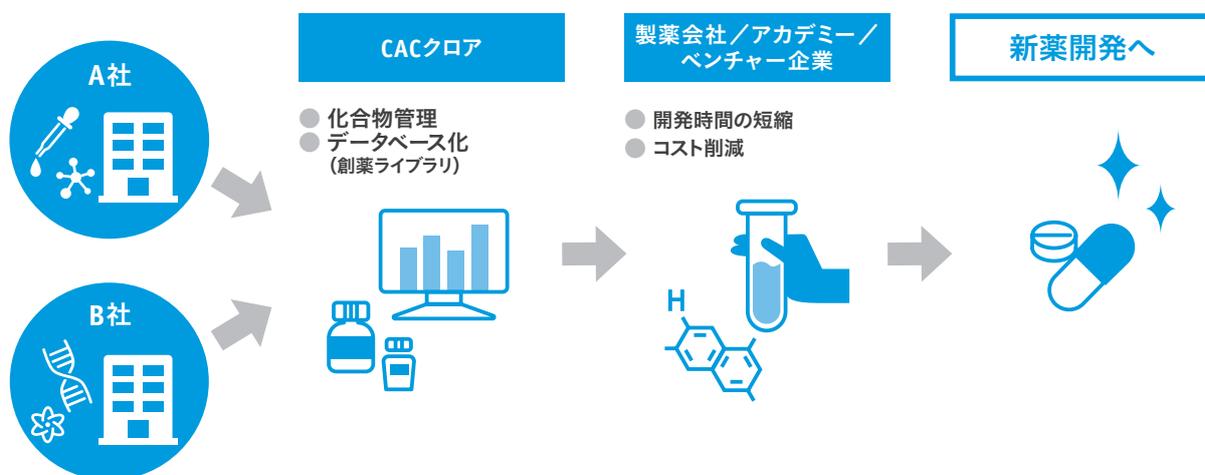
創薬推進のための 化合物共有ライブラリー事業の開始

CRO事業を行うCACクロアにおいて、2018年3月から、化合物共有ライブラリー事業を開始しました。

化合物共有ライブラリー事業とは、製薬会社各社が個別に保有・保管している医薬品探索研究用化合物や情報をCACクロアが構築・提供する設備およびプラットフォームに集約し、共有のライブラリーとしての利用を促進するものです。

新薬開発にまつわる時間の大幅な短縮およびコスト削減などにつながるとともに、日本発の創薬を推進するなどのイノベーション創出が期待される事業のため、国の経済対策「未来への投資を実現する経済対策」に対応した医療研究開発革新基盤創成事業に採択されています。

化合物共有ライブラリー事業





障害者スポーツ「ボッチャ」の普及・支援活動

CACグループは、社会の一員として環境保全、地域社会活動への参加などの社会貢献活動を行っています。創業50周年を迎えた2016年から、障害者スポーツである「ボッチャ」の普及・支援活動を開始、「ボッチャが誰もが知っているスポーツとなること、障害者の方々がボッチャに参加できる機会が拡大すること」などを活動目標としながら、社員自らが企画・実施することを重視したボッチャの普及・支援活動を行っています。

ボッチャへのCACグループの取り組み

日本ボッチャ協会へのゴールドパートナーとしての支援や、国内主要大会での運営サポートのほか、審判員資格取得者による審判や普及員



「CACカップ」集合写真

による各種イベントでの体験会実施などに加え、2017年9月にボッチャ大会「CACカップ」を初開催しました。「CACカップ」では、都内の特別支援学校7校から11チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。CACグループが開発したボッチャボール間の距離を測定する「ボッチャメジャー」を使用した実況中継も、大会を盛り上げました。

また、障害者が所属する団体などへボッチャボールセットを寄贈するプロジェクトを実施し、2017年度は14の非営利団体・法人に寄贈・講習会を行いました。

ボッチャの佐藤駿選手が入社

2018年4月、「ボッチャ」のトップアスリートである佐藤駿（さとう・しゅん）選手が入社しました。佐藤選手は、小学3年生からボッチャを始め、国内外の大会で活躍、2017年に行われた日本ボッチャ選手権ではBC2クラスで4位に入賞しました。日本



佐藤駿選手

ボッチャ協会の強化指定選手でもあり、今後さらなる活躍が期待されるトップアスリートです。

佐藤選手の競技活動を支援することで、ボッチャの普及・支援を一層推し進めると同時に、共に働く仲間である佐藤選手をグループ一丸となって応援することで、グループの一体感をより高めていきたいと考えています。



ボッチャとは？

ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに向けて、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりしていかに多くのボールを近づけるかを競います。障害によりボールを投げるができなくても勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。